

# 精神性と学術：21世紀への道<sup>1</sup>

## シュエリン公子

バハオラの律法時代は、英雄時代(1844 - 1921)、形成時代(1921- )、そして黄金時代に分けられる。現在は形成時代の第5期にあたる。守護者は、バハイ世界が7つの段階を経て発展していくと述べている。第1段階は、「世に知られない状態」、第2は「抑圧」の時代、第3は、「解放」、第4は「独立した地位」、第5は「国家宗教としてのバハイの確立」、第6は「バハイ国家の出現」、第7は「バハイ世界連邦の出現」である。21世紀は古い秩序の崩壊と新しい秩序の建設の同時プロセスが進行する。このような変遷の時期にあって、バハイの学術は、次の点に留意しつつ進められなければならない。(1)神の「創造的言葉」が知識習得の中心であること。(2)精神性と物質性は相反するものではなく、バハイの教えとモデルは社会問題解決と発展のためにフルに活用されるべきである。(3)バハイの法は有機的で、累進的に適用されること、また「アグダスの書」に知られていない事柄は万国正義院が制定する権限が与えられていることなどを留意しておくこと。(4)バハイには聖職者制度がなく、聖典の解釈の権限はアブドル・バハと守護者に限定されている。また、聖約に忠実であること。バハイの学術活動は主に5つの原型に分けられる。(1)バハイの歴史的研究；(2)聖典の分析；(3)宗教的概念の研究；(4)現代社会問題への適用；(5)社会的・歴史的現象との関連づけ。バハイ学者に望まれる態度と姿勢は、自己の業績に対する謙虚さと、他を排他せず、非攻撃的であらねばならない。

---

<sup>1</sup> この発表の後半の引用文献となっている、国際ティーチングセンターが出した「バハイ学術の促進」という題名の言明は、日本語訳をこの収録の日本語の部巻末に添付しているので参照されたい。